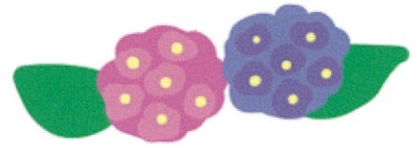


# 紫竹山コミ協 会報 むらさき



第17号

防災特集号

発行日 令和4年3月15日

発行 紫竹山校区  
コミュニティ協議会

## 防災特集号

今回は、防災特集号です。

紫竹山小学校避難所運営訓練の実施及び南三陸地区への防災視察研修について、掲載しています。

### 11/7 紫竹山小学校で 避難所運営訓練

衆議院選挙で、予定が1週間遅れの、11月7日(日)にコロナウイルス感染症対策配慮の上、避難所運営訓練を行いました。

紫竹山小学校に避難する地域の紫竹山校区防災会と女池校区コミュニティ協議会自主防災会が合同で行いました。

施設管理者の田中校長先生、後藤教頭先生、新潟市の避難所開設員の小山さん、地域から、みどり

病院の山口さんの参加を頂き、また、紫竹山・女池各防災会の自治会役員は、避難住民と運営委員に分かれ訓練を実施しました。

参加者は、紫竹山・女池各防災会の自治会役員他 116名。

訓練内容は、

- ①自治会防災会ごとに避難状況報告
  - ②野澤避難所運営委員長の挨拶
  - ③紫竹山小学校校長から、小学校の避難場所の活用などを聞いた
  - ④避難所開設DVD視聴
  - ⑤避難所運営委員は総務、情報、救護、環境、食料物資、ボランティアの6班に分かれ、班の役割確認をした
  - ⑥防災士の指導で、パーティション、ダンボールベット、簡易トイレ作成を体験した
  - ⑦新潟市職員の講評
  - ⑧田崎避難所運営副委員長の講評
- ※訓練後に各班がどのように班運営するかの要望がありました。



②全員集合点呼報告



①入口受付：紫竹山、女池別に受付



### ●防災訓練後の振り返り

紫竹山校区防災会設立後の初めての避難所運営訓練でしたが、紫竹山、女池防災会の各自治会防災会は、一丸となり訓練を終えることができました。

地域住民に周知することは大変困難なことです。まして、災害時は混乱の山……。したがって、少しでも意思疎通を図ることや、問題点を浮き彫りにすることは、重要なことです。将来的には、夜間訓練も必要でしょう。

各班担当の方々は、少しでも問題点を洗い出すべく真摯に意見交換しました。今後も次の防災訓練、本番の避難に少しでも役立つような話し合いを継続しなければなりません。

今後の防災訓練には「わたくし事」として、積極的に皆さんの参加をお願いいたします。



各班から出ていた提案を要約しました。

- ・各班の目印のためビブス(ゼッケン等)が必要では。
- ・各班毎に避難所運営のDVD等で学習する必要がある。
- ・先行学習して、各班に教え合い、理解し合うことが必要では。
- ・近隣医療介護の関係者に参加依頼を検討する。



④防災減災についてビデオ等解説



③紫竹山校区コミ協会長あいさつ



⑥防災士より簡易トイレの説明を受ける



⑤各班作業確認打ち合せ



⑧防災士よりダンボールベッドの組立説明を受ける



⑦防災士より簡易テントの説明を受ける

### 10/20-21 防災視察研修

#### ●語り部として新潟県人の姿勢

会長 紫竹山自治会 視察研修団長 野澤 正信

今回の防災研修は「東日本大震災、南三陸の復興10年の視察」から南三陸で奮闘する以前新潟でTVアナウンサーを経験された斉藤さん、国内災害被害地のボランティアとして経験を踏まえ、会社退職を契機に自ら震災の様子を語り部として伝えたいと想い、南三陸のホテルにアピールし雇って頂いた異色の経歴の持ち主。現在はホテルマンとして働き、震災の状況を外部の目を通して訪れた人に語り部として発信し、震災に遭遇した被災者住民の経験にはかなわないが、現場を案内し外部の目から見た被災地の惨状を、リアルに写真を交えて説明してくれる姿に同郷の新潟県人としてとても心揺さぶられる思いがしました。バスの中から語り部としての説明は、過去のアナウンサーの経歴から被災



⑩市の担当者からの今回の訓練内容について講評



⑨避難所グッズの一部



語り部 斉藤氏

地の様子を、南三陸の地形から津波の様子や、そこに住む住民の行動判断を交え、実際震災を経験されたかの如く、視覚と自ら培った話術で私達に語って頂き震災の様子がリアルに伝わり災害に対する備えと、自覚の大切さを悟らせて頂きました。今回防災研修に参加された地域の皆さんにも大いに参考になったのではと思っています。最後に、南三陸消防署の佐藤副所長が、地元中学生の作文の中で「100回の避難警報で避難しても101回目も避難するように」と書いていますと、命の大切さを紹介して頂き、とても印象に残りました。



### ●防災視察研修後記

副会長 米山第4自治会 視察研修副団長  
阿部 篤義

紫竹山校区コミ協役員一行19名参加の上、東日本大震災発生後10年が経過した被災地を視察しました。かつての被害の大きさを考えると、胸が痛む思いがしました。

特に今回は南三陸町志津川地区をホテルスタッフの方が当バスに乗り、一時間余りにわたり語り部として、震災時の様子から今日までの動向を詳細に説明して頂き、地震直後の恐怖を知る事が出来ました。夕食後には女性社員の方から恐怖の体験を聞き、子供と一緒に車の中から脱出した話には考えさせるものがありました。

翌日は東松島市野蒜（のびる）地区のキボツチャを視察しました。震災で廃校になった小学校を使い、楽しく遊びながら学ぶ施設を目標に、震災の教訓を子供たちに伝えるべく作られたものです。現地はまだまだ復興の途中、今後一日も早く地域の皆さんが安心して生活できるように願って止みません。



千年希望の丘慰霊碑

### ●被災地視察を終えて

紫竹山校区コミュニティ協議会 防災士  
委員会委員長 鏡西第2自治会 小林 隆夫

約20年前、東京都調布市にある消防大学校で数ヶ月、一緒に勉強を共にした南三陸消防署の同僚が東日本大震災の発生に伴い、非番で自宅から消防署に駆けつけて、住民避難誘導中に殉職したことを知りました。東北の太平洋側はリアス式海岸線で大きな地震があると大きな津波が来ることを分かっているのに、なぜプロの消防士が殉職したのか疑問でした。結論はTV報道のとおり、町を全部飲み込むほどの想定外の津波が襲来したことでした。同年、全国の有志で

お寺にお参りに行きました。奥様は悲しまれており、お話はあまりできませんでしたが、10年経過して、高台に新たにできた南三陸消防署でお話を伺ったところ、奥様も元氣そうに拝見いたしました。病に臥していたことを知りました。東北の太平洋側の海岸部に面している集落は、大津波で壊滅的な被害が発生しました。職員の中でも多くの方が身内や親族、友人などが亡くなっており、自分ばかり悲しんでいられない事情もあつたりして、10年経過しても消防職員の傷も癒えていないと思えました。当時の職員の手記を拝見して涙がこみ上げてきます。「東日本大震災で最も悲惨で悲しい焼死体でした。それは臨月を迎えた妊婦が、住宅の裏山に向かう土手に手を伸ばした格好でうつぶせになっている姿でした。苦しかっただろう、守るため、火から少しでも避けるためのうつぶせだったのかと思うと涙が流れてきました。ヘルメットを深々とかぶり隊員に涙を見せないようにしましたが、

涙が頬を流れ落ちてきました。付近を見回し一番立派で綺麗な布を泥で汚れていた顔を拭いてやり、隊員全員で丁寧な布を掛けて手を合わせてきました。いま私たちができる精一杯な供養でした。防災の担い手などと言われている我々が、何もできなかった不甲斐なさに自責の念を持たずにはいられませんでした。この震災がなければ、新しい命が生まれ、家族は子供中心となり、成長と併せた笑いや喜びがあつたはずなのにと思うと胸が張り裂ける思いでした。」

南三陸消防署で幹部から、現在の復興状況や教訓などを聞いていて、とにかく地震が発生したら、高台に避難することを何度も力を込めてお話されていきました。

新潟市においても、ひとたび大地震があると、最大津波が新潟西港で10mを超えるとしていますが、最寄りの3階建以上の避難所に速やかに避難することが大切です。最近の異常気象で想定外の大雨や津波などで命を落とすことなく、万全な対策をとって生き抜く術を備えていく必要があるのだと常々感じています。

### ●紫竹山自治会

高橋正太郎

東日本大震災から10年経ちましたが、まだまだ復興中です。三陸エリアを見学させてもらって大変勉強になりました。ありがとうございます。

### ●紫竹山自治会

渡辺 俊雄

被災地を訪れることに躊躇があつたが、防災研修に参加して直接自分の素肌を通し、現状の一端を体得することができた。復旧は進んでいるが復興はまだ遠く、特に精神的な痛手は今も癒えていないことを。この貴重な体験を地元防災活動に活かしていきたい。

### ●紫竹山自治会

丸山 保

南三陸への防災研修で「千年希望の丘」他の数ヶ所を見聞し、防災時の心構えとし、次の様に学び感じました。家族で避難場所を決めておく。想定を鷓呑みにしない。津波でんでんこ。など大変ためになり、今後の防災活動に役立てようと思います。

### ●鏡西第1自治会

紫竹山校区コミュニティ協議会 総務  
高野 富男

大震災復興10年の南三陸視察の防災研修に参加する。視察先案内の方、語り部の方々からの体験談は、非常



語り部 斉藤氏

に実りある研修になった。自分の「命を守る」は、最初にとるべき行動であるが、防災研修で受けた知識である。南三陸町戸倉小学校の地元出身女性先生は、奥尻島の津波災害から、今の小学校屋上の指定避難場所に疑問を持ち、職員会議に諮る。3月9日の前地震で校長は、10日に学校から高台に避難の訓練を実施する。11日の大震災は、全員高台に避難し人命が失われなかった。また町の指定場所に避難したが、犠牲になった方がいる事を知る。など。

今後の防災活動は、避難等の想定条件を良く理解すること、想定外となる場合の周知が必要である。

### ●鏡西第1自治会

長谷川清志

今回、初めて東日本大震災の被災地に行く事ができました。「千年希望の丘」「南三陸ホテル観洋の語り部」「KIBOTCHA」全てに、テレビ等の報道とは違う凄さ、痛ましき、切なさを感じました。それは、現地での現地の人々の声による話し、百聞は一見に如かずになると感じました。町内会、小中高学校行事等で若い人に早い時期に、この研修をしてもらいたいです。

### ●米山第3自治会

大倉 勝彦

災害の様子はテレビ等で見ましたが実際現地へ行き、語り部、ホテル従業員さんの体験談を聞くと臨場感あふれて身につまされました。避難する方向から濁流が押し寄せて来るとはどんなに恐ろしかったことでしょう。海岸の堤防は高くして家は高台へ立て直し、このようにしなければこの土地では暮らせない。地域へ帰りこの事を話して、我々はどうするか？今回の視察は大変有意義でした。

### ●米山第3自治会

宮下 重三

南三陸で震度6弱の揺れと最大20m以上の津波が襲来してきた、とのこと今まで家があり町があり。地震で野原になってしまい家族はたい

### ●鏡西第1自治会

へんだと思いました。被害死者620名、行方不明者211名、建物被害3321戸。町内として自主防災組織づくり、てんでんこ言う通り、自分の命は自分で守り、今後防災意識を高め、町内の皆様の安心安全を守って行きたいと思いました。

### ●米山第4自治会

青山 齊

東日本大震災（南三陸）から10年、その復興状態を視察した。震災前の自然の原形をとどめたところはなく、高上げされた防潮堤・高上げされた道路と完全ではないが、少しずつ復興している姿を見た。「語り部」の案内、現地従業員の話を聞き、胸を打たれたものが多くあつた。いつ発生するか予測がつかない災害に対して、私たちの出来ることは、日頃より備えをしておくこと、自分の身は自分で守ること、家族とは最後に集まる場所を決めておくこと、などの重要性を知ることができた。

もし新潟に災害が発生したならば、正しい情報をできるだけ早く伝えてほしい。私たちは、その情報をもとに最善の行動をとると思います。

### ●米山第4自治会

田中 和夫

体感して、感動（びっくり？）と祈り、涙の連続でした。あの大草原



と新しい道路、建物、堤防とがマッチングせず異様に感じ、現地の方々のお話にはグットきました。(言葉出さず)

当県での地震も体験(身内が被災)していたのですが、プラス「津波」はすごいですね。「あれがテレビで見た処か!」と思いつつ、自然と頭をたれ、合掌している自分がありました。これから活かすことが「鎮魂」かと!ありがとうございます。

●米山第5自治会

紫竹山校区コミュニティ協議会 副会長

小菅 文定

(1)「てんでんこ」

津波の時には「てんでんこ」先ずは自分自身の安全確保を最優先にする。とにかく安全な高台に避難することが重要。(昔から三陸地方で言い伝えられている。)この時は他人の救助等で逆戻りする事などは絶対に許してはならない。(逆戻りしての死亡報告多数)

(2)「最善策を選び最悪な状態を想定する。」

・ハザードマップは、安全を100%保障するものではない。  
・山に近い場所では、高い建物の3FLよりとにかく高台に逃げる。  
・山に遠い場所では、3FL以上の

頑丈建物に逃げる。  
(逃げるのに時間が掛かり途中で津波被害にあった事例の報告がある。)

(3)「近助」の考え方も重要

一般的には自助・共助・公助とありますが、共助は自治会等広い範囲であり、津波等緊急の場合、向こう三軒両隣り、近所(近助)の相互扶助が重要である。

●米山第5自治会

高澤 正美

初めて視察旅行に参加させて頂きました。南三陸の海はとても穏やかで、あの大津波がうその様にキラキラ輝いてました。戸倉小学校で若い女性教師の「本当に避難場所は学校の屋上で良いのですか?」の強い問いかけに校長先生が、避難場所をより高い丘の上にある五十鈴神社に変更し、結果的に東日本大震災時には生徒・職員の方々、無事だったそうです。

私も大事な家族、大切な友人、いつもお世話になっている地域の方々のためにも、改めて防災の事、考え直してみたいと思いました。最後になりましたが、すばらしい視察旅行を計画して頂きありがとうございます。とても有意義な時間を過ごすことができました。

●駅南ハイツ自治会

紫竹山校区コミュニティ協議会 会計

中村 哲

(1)ホテルスタッフの話

震災当時、石巻市にて震災後の津波が後方から襲い自分は小学生の娘と自家用車で逃げた。命を守るため空いている一方通行の道路を逆走り、車の床まで海水が侵入する中、必死に運転して助かった。その後、後続のワゴン車は後部が浮き上がり残念ながら津波にのまれたとの事。

【教訓1】非常時は交通ルールより

とつさの逃げ道を選択する判断

(2)ホテルの語り部 齊藤氏の話

・南三陸町立戸倉小学校の校長先生は、震災の二日前に地震があり、津波を想定して当初は学校の屋上へ避難場所でした。しかし他の先生の意見もあり、はたしてその高さで児童を守るかと熟考し近くの神社のある高台を避難場所に変更して避難訓練を行った。震災当日は、訓練どおり高台へ避難し、児童全員の命を守ることができた。(隣の大川小では悲惨な結果に)その際、寒い夜間、卒業式で披露する歌を、寝ないよう歌い続けたとの事。また学校の屋上の孤立した場所より陸続きの高台がベストと判断したとの事。

・高野会館はホテルの所有する3階建ての結婚式場でした。震災当日は町の高齢者の芸能発表会でした。その時、皆が外に逃げようとしたけれども、スタッフが屋上へ避難させ、約300人の人の命を守ったとの事。(現在でも当時の被災した状態で現存)

【教訓1】津波の高さは想定外、できるだけ高所へ避難

【教訓2】津波は行き場を失った海水が山手からも襲ってくる。とにかく早く高台に避難

【教訓3】潮がかなりの距離に沖へ引いたら、魚介など獲らずに高台へ避難(津波の前兆)



防災体験宿泊施設「KIBOTCHA」

(3)南三陸消防署 佐藤副署長の話

消防署には震災で殉職した10名の慰霊碑が建立されてきました。  
・当時、避難箇所を住民に指示したが、そこで津波に襲われた方を思い、今でも心が痛むという話。  
・被災した家屋に窃盗する人間がいて夜間パトロールしたとの事。  
・署員三日三晩不眠不休で活動した話。

・避難所では食糧が配給されたが、家屋が無事な世帯は援助も無く避難所からも他町内の住民も含めて差別を受けた。(あなたはどこからきたのか?)

【教訓1】「1000回逃げて何も無くても1001回目も逃げる」

【教訓2】「津波でんでんこ」津波が起きたらでんでんこばらばらに一人で高所へ避難せよ

(4)感想

紫竹山コミ協では毎年、防災研修を行っています。我が々の経験した事のない大災害に見舞われた方々の生の声を、10年経った今でも昨日のように聴くことができ、本当にためになりました。ぜひ町内、知人、身内等にも機会があれば上記の話を伝えていきたいと思いました。今回は本当に遠方まで行ったのよい研修視察でありました。

●駅南ハイツ自治会

防災士 大澤 耕司

岩沼町、南三陸町、東松島町の復興状況の視察に行ってきました。災害は防ぎ事は大変お金が掛かるし時間が掛かります。災害はいつくるかわかりません。今回各地で感じた事は、減災という考え、避難の準備が大変大事な事を学ばせてもらいました。私たち自治会の人々の災害に対応する能力向上に役に立つ助言が出来る様、防災士として学んで行きたいと思えます。

●エイルマンション新潟駅南自治会

市村ひとみ

今回、初めて南三陸の知を学ぶ防災研修会に参加させて頂きました。岩沼市の沿岸部に広大な敷地の「千年希望の丘」という復興を象徴するシンボルがありました。そこには、生活道路だった跡形や地盤沈下し地面から大きく突き出たマンホールなどが残されており、たくさん建物や人々の生活があったことが伺えました。一瞬で全くなくなる津波の恐ろしさを感じました。百聞は一見にしかず、直接触れることで防災の意識が高まりました。

●米山第5自治会

新潟市市議会議員 内山 航

【自助・近所・公助 津波でんでんこ】

紫竹山コミュニティ協議会の視察で南三陸や東松山市へ。千年希望の丘では、震災前に、まさに家があった場所になっています。津波よけの「千年希望の丘」1000年先の災害にもしっかりと機能してほしいと思いますし、人の思いを繋いでほしいと思います。

新潟出身のアナウンサー齊藤さんの語り部の話、ホテルの従業員の方の一人ひとりの体験談、消防署副所長の佐藤宗一さんのお話をお聞きす



津波の高さの復興のシンボル 千年希望の丘

る機会もいただきました。

「戸倉小学校」震災の二日前に大きな地震があった。その時、戸倉小学校は建設して間もない新しい小学校だった。3月9日夕方の職員会議。若手の女子教師、齊藤先生は「もし波が来たとしたら避難場所はこの小学校の屋上でいいのか?」と強く質問した。

普段であれば、屋上が避難場所に指定されているので、議論の余地はないはずであったが、当時の校長先生は埼玉の出身で海のない県の出身。一応消防や大学の教授にも確認をとった。消防の回答は「屋上でよい」。しかし、万が一のことを考えて、3月10日。それよりも高い高台のいすず神社に逃げようと決定。その日のうちに避難訓練を行った。

3月11日。津波によって小学校の校舎は屋上ごと飲み込まれ、児童たちはいすず神社で泣きじゃくりながら生き延びた。雪の降る日で、子供たちが寝そぐになるたびに、歌を歌った。夜通し歌った。寝たら子供たちは死んでしまう。

3月11日の卒業式に歌うはずだった川嶋あいさんの「旅立ちの日に」という歌だった。後日、改めて行われた彼らの卒業式に川嶋あいさんがサプライズできてくれたのは、また別の話。となりの大川小学校は児童や先生が



みんな流され、帰らぬ人となった。長年、二つの小学校は比較されてきたが、最近では落ち着いてきたとのこと。「消防副所長の話」南三陸管内では10人の消防士さんが殉職された。みんな、家族の安否もわからないまま、不眠不休で取り組んだ。

今回の津波では、浸水想定をはるかに超えて、津波が押し寄せ、消防がオツケーを出した避難場所等で多くの犠牲者を出した。

自分が指導した避難方法で、しっかりと訓練を重ねたにもかかわらず、たくさんの方がなくなってしまうと、今もここに傷を抱えている職員は多いとのこと。また、避難所差別というか、避難所には家が全部流された人と、そうではないが、電気もガスも水道も止まっているので避難所に来るしかない方がいる。ある避難所では、「あなたは家が残っているでしょ。なぜここに来るんですか」という逆の差別が起こったとか。

「高野会館」3月11日の地震発生時は300人のお年寄りによるお楽しみ会が行われていた。地震が発生し、津波が来ると、パニックになり、入り口に殺到。しかし、お年寄りたちが津波が到達するまでに高台に避難することは困難と高野会館の職員が判断。全員を屋上に避難させた。結果としてそれを振り切ったお年寄りは亡く

なり、屋上にまで津波が押し寄せた。自分の判断で、屋上に避難させた職員が大きな後悔の念を感じたが、津波はそこで収まり、屋上の方々は助かった。

「ホテルの職員さんの話」自分の子供を幼稚園まで迎えに行き、逃げようとしたのだが、ふとおばちゃんはまだ家にいると思って、戻ってしまった。

自分の子供と親戚の子供、おばあちゃんを乗せて逃げていた最中、親戚の子供がトイレに行きたいと、コンビニに。コンビニにいた間に、周りの人が走って逃げて行った。津波が来ていた。みんなを車に乗せて、アクセル全開。渋滞していたが、一方通行を無視して、誰もいない道路を爆走。それでも津波が押し寄せアクセルを踏んでも前に進まない。バックミラーを見ると後ろのエステイマがふらふらとしていた。この時の津波、10cm。10cmで車は動かさない。20cmでひとは自立できない。30cmは確実に流されて戻ってこれない。

奇跡的に自分の車はなにかの拍子に進むことができて、九死に一生。避難所であるエステイマは近所の方のエステイマだったと判明。結局その車は助からなかった。

「皆さんに共通している話」  
1. 津波でんでんこ  
津波が来たら一人ひとり、自分の

命を守り。とにかくそれぞれ逃げろ。家族が集まる場所をあらかじめ決めておけ。必ず家族の居場所を探そうになるから。

2. 100回の津波警報で何も起こらないとしても、1001回目も必ず逃げて。

3. 近所づきあいを大切にしておいた方が良い。必ず助け合う時が来る。まだまだ、視察先はあるものですが、長くなるのでこの辺で。また、いろんな機会に共有します。帰りのバスの中である方が言いました。

「自助・共助・公助」はわかりづらいう。「自助・近所・公助」。紫竹山コミュニティ協議会はこれで行くぞーと。近所付き合いが大切だと改めて思えます。

新潟の防災の在り方、ご近所付き合いの在り方、地域が生き生きと光り輝くような、取り組みを支援していきたいなと思います。

今回の視察を通して、地域の団結力が問われていると感じました。災害は起こった時に命を守ることでも大事ですが、そのあと数年から数十年かけて孤独が襲ってきます。その孤独に耐えるためにも地域とのつながりを持つておきたいと思えますし、多くの方のその習慣をつけてもらえるような取り組みを行っていききたいと思えます。

## 緊急時の避難場所を 決めておきましょう

指定されている避難場所には災害時に、食料・飲料水・毛布などが届けられます。緊急時にはどこへ避難するかを家族で話し合っておきましょう。

- 指定避難場所は次の3カ所のみです。
- 紫竹山小学校
  - 北越高等学校
  - 駅南コミュニティセンター
  - テクノスクール(津波発生時一時避難場所)



## 編集後記

まだ、まだコロナ禍が続いています。オミクロン株は、想像を絶する速さで感染を広げています。3回目ワクチン接種が徐々に進んでいます。防災減災の話ではありませんが、「自分の命は自分で守る」しかないのです。いろいろな活動が実施され、活動記録としての一面を持つ、会報むらさきも一層充実させて行きたいと思えます。